

お申込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

2008年1月

ダイワ・オルタナティブファンド・シリーズ ソフトコモディティ条件付元本確保型ファンド(豪ドル建)2008-01



ソフトコモディティ
コモディティ投資の次の視点は、「農産物」です。

当資料のお取扱いにおけるご注意

当資料は、大和証券投資信託委託株式会社により作成された販売用資料です。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。当資料中における運用実績等は参考とする目的で過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。当ファンドは、資産の大部分を、農産物価格連動債(以下「債券」といいます)に投資しますので、組入れた債券の価格の下落や、債券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。さらに、組入れた債券のパフォーマンスは、農産物商品先物(小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖)の値動きに連動するため、農産物商品先物の取引価格の変動の影響により、組入れた債券の価格が変動し、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、また、基準価額が豪ドル建で算出されるため、円貨でお受取りの際には為替相場の影響により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

目論見書のご請求・お申込みは…

大和証券
Daisho Securities

(販売会社)

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会 日本証券業協会
社団法人 投資信託協会
社団法人 日本証券投資顧問業協会
社団法人 金融先物取引業協会

設定は…

ダイワ・アセット・マネジメント・
サービス・リミテッド(ケイマン)

運用は…

ダイワ アセット マネージメント(ヨーロッパ)リミテッド

ファンドのリスクについて

当ファンドは、農産物価格連動債への投資を通じて、元本確保目標日において、農産物商品先物(小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖)のスタート時点とエンド時点の値動きに一定の比率で連動した収益の獲得をめざしますが、ファンドの基準価額は期中、大きく変動する可能性があります。当ファンドはファンドの元本確保目標日時点における豪ドル建ての元本の確保をめざしますが、元本の確保が保証されているものではありません。また、信託期間中の買戻請求での買戻価格は投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

投資者の皆さまにおかれましては、当ファンドの内容・リスクを充分ご理解のうえお申込みくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

以下は、受益証券への投資および、またはその保有に伴なうリスクのすべてを網羅したリストとして示すことを意図したものではありません。投資者は、受益証券の購入および保有にかかるリスクを慎重にご検討ください。

(1)ファンドの基準価額の主な変動要因

農産物商品先物の価格変動リスク

農産物商品先物の取引価格は、さまざまな要因(商品の需給関係の変化、天候、農業生産、貿易動向、為替レート、金利の変動、政治的・経済的事由および政策、疾病、伝染病、技術発展等)に基づき変動します(個々の品目により具体的な変動要因は異なります)。

当ファンドでは、投資する農産物価格連動債を通じて、元本確保目標日において、農産物商品先物(小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖)のスタート時点とエンド時点の値動きに一定の比率で連動した収益の獲得をめざしますが、エンド価格参照期間にいたる以前は将来の期近農産物商品先物が投資の対象であり、エンド価格参照期間にいたる以前の時点での期近農産物商品先物の価格にファンドの基準価額が連動するわけではありません。さらに農産物商品先物の値動きの影響を受けてファンドの基準価額は変動する可能性があります。また、ファンドの期中の基準価額は農産物商品先物の水準に必ずしも一致せず、農産物商品先物の水準と同様に変動しないことがあります。

当ファンドの基準価額は、農産物商品先物市場の変動の影響を受け、短期的または長期的に大きく下落し、投資元本を下回ることがあります。

また、農産物商品先物市場は、市場の流動性の不足、投機家の参入および政府の規制・介入等のさまざまな要因により、一時的に偏向するなどの混乱を生じることがあります。

金利リスク

ファンドの市場価値は、受ける影響の程度は異なるとしても、従来の債券と同様に金利変動による影響を被るものと予想されます。一般的に、金利が上昇すると、ファンドの市場価値は減少し、逆に金利が下がると、ファンドの市場価値は増加すると予想されます。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンドのリスクについて

外国証券への投資に伴うリスク

イ. 為替リスク

当ファンドは豪ドル建であり、主な投資対象である農産物価格連動債は豪ドル建です。農産物価格連動債は米ドル建での商品先物の取引価格に連動しますが、原則として豪ドルと米ドル間の為替は為替ヘッジされます。

ただし、当ファンドの基準価額は豪ドルで表示されるため、円貨から投資した場合には、円貨換算した基準価額は外国為替相場の変動の影響を受けます。

ロ. カントリー・リスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、ファンドの基準価額が予想に反して下落したり、投資方針に沿った運用が困難となることがあります。

(2) 農産物価格連動債への投資リスク

当ファンドは主な投資対象である農産物価格連動債のリスクの影響を受けます。

農産物価格連動債は、豪ドル建での元本が確保されていますが、元本の確保は、農産物価格連動債を償還日まで保有した場合にのみ適用されます。

ボラティリティ：農産物価格連動債は、変動性の高い商品です。ボラティリティとは、特定の変数（農産物価格連動債の場合は、金融資産の価格、パフォーマンス、または投資リターンをいいます）に関する該当期間中の予想不可能な変動の程度をいいます。ボラティリティは、価格または投資リターンの動向を暗示するものではありません。変動性の高い商品は、変動性の低い商品に比べ、価格が頻繁に上昇または下落し、また、その変動幅も変動性の低い商品に比べて大きくなります。

詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

レバレッジ：農産物価格連動債に関して、レバレッジが利用されます。ある投資商品に関しレバレッジが利用される場合、対象資産または参考支払額に対する実効エクスポージャーは増加します。ファンドは、レバレッジによって対象資産の価格が下落した場合、多大な損失を被る可能性があります。レバレッジは、複雑な金融商品に含まれるデリバティブ（金融派生商品）について利用される可能性があります。

複合投資：農産物価格連動債は、債券およびデリバティブ（金融派生商品）のいくつかのまたはすべての性質を有している可能性があります。これらの要素は、互いに影響し合うことにより、当初投資額に損失を及ぼす可能性を高める一方、またリターンを増大させる可能性があります。

投資リターン：農産物価格連動債の価格および発生する収益（もしあれば）は、増加または減少する可能性があります。ファンドは、投資金額について損失を被る可能性もあり、また、投資金額をすべて失う可能性もあります。リスクには以下が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

・農産物価格連動債の市場価格は、多くの予測不可能な要因による影響を受ける可能性があり、農産物価格連動債の購入者が満期より前に本証券を売却する場合、かかる購入者は、農産物価格連動債の発行価格よりも少ない金額を受取る可能性があります。

・農産物価格連動債の価格の変動は、対象資産の価格の変動に相関しない可能性もあります。ある対象資産の価格の下落または上昇は、他の対象資産の価格の変動によって相殺され、対象資産の価格の下落または上昇を上回る場合もあります。

・農産物価格連動債の価格は、ゴールドマン・サックス・インターナショナルおよびその関連会社による農産物価格連動債および、または対象資産に関する取引および他の取引によって、悪影響を受ける可能性があります。

・農産物価格連動債の価格は、ゴールドマン・サックス・インターナショナルが計算代理人として、自らの単独裁量により随時下す判断によって多大な影響を受ける可能性があります。

ファンドのリスクについて

取引所による保証はなく、また、先物契約の所有権もないこと: 農産物価格連動債は、取引所によって保証されておらず、また、ファンドは、先物契約について直接の所有権を有するものでもありません。

流動性の欠如: 農産物価格連動債の流通市場はありません。

価格差: ゴールドマン・サックス・インターナショナルによって決定される農産物価格連動債の価格は、(i)ゴールドマン・サックス・インターナショナルの価格決定モデルを参考に決定される農産物価格連動債の価格、および(ii) 第三者によって決定される価格とかなり異なる可能性があります。

(3) 換金性が制限される場合

通常と異なる状況であると管理会社が判断した場合、換金に制限を設けることがあります。

農産物価格連動債の流動性の欠如、商品先物取引所、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、ご換金の申込みの受け付けを中止することがあります。ご換金の申込みの受け付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日のご換金の申込みを撤回することができます。ただし、受益者がそのご換金の申込みを撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初のファンドの基準価額の計算日にご換金の申込みを受け付けたものとして取扱います。

(4) 元本確保目標日より前に換金する場合

ファンドにおける豪ドル建での投資元本の確保は、組入れている農産物価格連動債の償還に依拠するため、ファンドの元本確保目標日により適用されます。ファンドの元本確保目標日より前における信託期間中の買戻請求の際には、買戻請求時点に対応する取引日の基準価額により買戻しが行なわれるため、豪ドル建での投資元本の確保は行なわれません。したがって、その場合、基準価額は豪ドル建での投資元本を割込むことがあります。

また、投資する農産物価格連動債の連動率は債券の償還時にのみ適用されるものであり、ファンドの元本確保目標日より前における信託期間中の買戻請求の際には、基準価額が農産物のバスケット価格に連動する比率は限定的となります。このため当ファンドは、元本確保目標日または繰上げ償還決定時まで継続的に保有されることを推奨します。

(5) 農産物価格連動債の発行体の信用力に関するリスク

投資額に対するリターンおよびその利払いに関するファンドの請求権は、担保されていません。農産物価格連動債の発行体が債務不履行に陥った場合、投資額がファンドに返金されないリスクがあります。そのような状況では、受益証券の買戻しはできなくなります。

(6) 政治的および規制上のリスク

ファンド資産の価格は、政治不安、政府の方針や税制の変更、海外への投資や送金の制限および適用法令などの不確定要因の影響を受けることがあります。

(7) その他の留意点

元本確保目標日における投資元本の確保は、豪ドル建での投資元本の確保であり、円貨でお受取りの際には、為替相場の影響により、損失を被り、投資元本を割込むことがありますので、ご注意ください。

市場の急変時等には、運用方針および運用プロセスに従った運用が行なえない場合があります。

コンピューター関係の不慮の出来事に起因する市場リスクやシステム上のリスクが生じる可能性があります。

商品先物取引所、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、管理会社は基準価額の決定を一時的に停止し、ファンド証券の買戻しを一時的に停止することがあります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お客さまにご負担いただく費用

当ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。

< 直接ご負担いただく費用 >

お買付時の申込手数料

申込口数に応じて申込金額に右記の手数料率を乗じて得た額とします。
申込金額 = お買付価額 × 申込口数

買戻(換金)手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

< 保有期間中に間接的にご負担いただく費用 >

管理報酬等

管理報酬等は、ファンドの残存口数に当初元本(1口当り1,000豪ドル)を乗じた額に対して、年率1.25%に相当する金額とします。

その他の手数料等

投資する農産物価格連動債において、組成にかかる費用(債券費用)が、発行総額の2.5%がかかります。農産物価格連動債にはデリバティブが内包されておりデリバティブには取引コストがかかります。かかる債券費用及びデリバティブの取引コスト等は農産物価格連動債の評価価格に重要な影響を与える要因となります。また、その他の費用として、監査報酬やファンドの組成に関するすべての設立費等の費用をご負担いただきます。

その他の費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

< 5年間保有した場合の実質的な報酬(年率) >

ファンドの残存口数に当初元本(1口当り1,000豪ドル)を乗じた額に対して、以下の料率となります。

実質的な報酬(年率) = 管理報酬等 + 農産物価格連動債に関連する費用

1.75%程度 (年率) = 1.25% + 約0.50%

管理報酬等:年率 1.25%

農産物価格連動債に関連する費用:年率 約0.5%(2.5% ÷ 5年間)

上記の実質的な報酬(年率)は、元本確保目標日までの5年間保有し続けた場合のみ適用されます。

平成20年3月の最初の取引日までは、換金することができません。

手数料および費用については、運用状況等によって変動するものであり、かかる費用および手数料は事前に見積もることができません。したがって、かかる費用および手数料の金額、料率または上限を正確に表示することができません。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

申込手数料率

お買付時の申込口数	手数料率(税込)
100口未満	3.150%
100口以上1,000口未満	2.100%
1,000口以上10,000口未満	1.050%
10,000口以上	0.525%

お申込みメモ (お申込みに際しては「外国証券取引口座約款」に基づく外国証券取引口座の設定が必要です)

- ファンド名称 ダイワ・オルタナティブファンド・シリーズ ソフトコモディティ条件付元本確保型ファンド(豪ドル建)2008-01
- 形態 ケイマン籍オープンエンド契約型外国投資信託 / 単位型
- 募集期間 平成20年1月21日 ~ 平成20年1月31日
 平成20年1月31日の日本における申込受付時間は午後3時までとします。
- 入金最終日 平成20年2月4日
- 設定日 平成20年2月5日
- 元本確保目標日 平成25年1月31日
- 償還日 平成25年2月28日(信託期間約5年)
- お買付価額 1口当り1,000豪ドル(1口単位)
- 買戻し(ご換金) 原則として、取引日の2営業日前(元本確保目標日および収益ロックインの発生により繰上げ償還が決定された取引日から約3週間後の管理会社が決定する日以降については、取引日当日)の日本時間午後4時30分まで、販売会社が買戻しの請求を受付けます。
 ただし、販売会社は、一定の場合(ファンド休日が続く場合等)、特定の取引日について買戻しの請求を受付けない場合があります。詳しくは、販売会社にお問合わせ下さい。
 「取引日」とは、平成20年3月以降の毎週最終営業日、元本確保目標日(平成25年1月31日)以後償還日までの毎営業日、および収益ロックインの発生により繰上げ償還が決定された取引日から約3週間後の管理会社が決定する日以降繰上げ償還日までの毎営業日。ただし、繰上げ償還が決定された取引日から約3週間後までの間も、毎週最終営業日を取引日とします。
 「営業日」とは、東京証券取引所、ニューヨークの銀行、ロンドンの銀行、シドニーの銀行、ダブリンの銀行のいずれもが営業している日をいいます。
- 買戻単位 1口単位
- 買戻代金の支払い 通常、日本における買戻代金の支払いは、日本における約定日から起算して日本の営業日で4営業日目に行なわれます。
 「日本における約定日」とは、日本において販売会社が当該注文の成立を確認した日をいいます。通常、取引日の翌営業日を指します。
- 税金 当ファンドは税法上、公募外国公社債投資信託であり、ファンド証券の買戻しに基づく個人の受益者の売買益については課税されません。
 将来変更となる場合があります。
- 分配方針 当ファンドは収益の分配は行なわない予定です。

はじめに

石油・天然ガスに代表されるエネルギー、金・銅・アルミニウム等の鉱物資源、これらの世界の経済活動にとって必要不可欠なコモディティ(商品)は近年、主に新興諸国の経済規模の急拡大に伴う需要増加等に起因して、取引価格が上昇トレンドを描いてきており、その動向は一消費者にも関係するニュースとなって世間の耳目を集めることとなりました。

そして今、コモディティの価格上昇はエネルギー、鉱物資源にとどまらずソフトコモディティと呼ばれる農産物にも広がろうとしています。農産物は世界経済において『食料としての需要』、『家畜の飼料としての需要』に加えて新たに『バイオ燃料としての需要』の拡大が見込まれています。

今回、農産物(ソフトコモディティ)の商品先物価格の上昇を投資機会ととらえ、その値動きから投資収益を享受できる投資信託を、条件付元本確保型ファンドとしてご提供いたします。

2008年1月

大和証券投資信託委託株式会社

目次

ファンドのリスクについて	…1
お客さまにご負担いただく費用	…4
お申込みメモ	…5
はじめに	…6
ソフトコモディティとは1	…7
ソフトコモディティとは2	…8
身の回りにあるモノの値上げ	…9
農産物の3大需要～食料、飼料、燃料～	…10
飼料(Feed)としての需要1	…11
飼料(Feed)としての需要2	…12
燃料(Fuel)としての需要1	…13
燃料(Fuel)としての需要2	…14
供給1 収穫面積の推移	…15
供給2 地球温暖化などによる異常気象の影響	…16
ファンドの目的および特色	…17
農産物価格連動債に投資します	…18
農産物価格連動債について	…19
農産物バスケット価格のパフォーマンスのイメージ	…20
農産物価格連動債の償還時について	…21
豪ドル建での元本確保をめざします	…22
当初投資元本の2倍以上に上昇すると予想する場合、繰上げ償還します	…23
スケジュールについて	…24
ファンドの仕組み	…25
(ご参考) 株価指数と農産物バスケットの推移比較	…26
(ご参考) 豪ドル投資の魅力	…27
(ご参考) 4つのソフトコモディティ1	…28
(ご参考) 4つのソフトコモディティ2	…29
(ご参考) 小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖の豆知識	…30

ソフトコモディティとは1

ソフトコモディティとは・・・

当資料中におけるソフトコモディティとは、農産物のことを指しますが、畜産物等もソフトコモディティに含まれる場合があります。

ソフトコモディティとは一般的に、コモディティの中でも、小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖などの農産物を指します。

私たち人間の食料としてだけでなく、家畜などへの飼料、ガソリンなどに代わる燃料としても期待されており、新たな世界の経済活動に必要な不可欠なものです。

コモディティとは

■身近にあるさまざまな製品の原材料になるもので、主要な品目としては、金・銀などの「貴金属」、銅・アルミニウムなどの「産業金属」、生牛・豚身赤肉などの「畜産物」、小麦・トウモロコシなどの「農産物」、そして原油や天然ガスなどの「エネルギー」などがあり、一般的に商品先物取引所に上場されています。

代表的なソフトコモディティ

小麦



トウモロコシ



大豆



砂糖



(注)ソフトコモディティは、ほかに綿花、コーヒー、ココアなどがあります。

コモディティのイメージ図



世界有数の投資銀行であり、コモディティ・ビジネスにおける第一人者であるゴールドマン・サックスは、いち早くソフトコモディティに着目しております。ゴールドマン・サックスのグローバル・インベストメント・リサーチによるレポート「コモディティ 食料、飼料、燃料：農産物・畜産物・バイオ燃料の見通し」2007年3月(日本では2007年7月和訳版発行)において、ソフトコモディティの品目である小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖にエネルギーや産業用金属のような価格上昇が今後始まりうるとして注目を集めております。

(注) 上記は、あくまでもレポート作成時点の見通しを書いたものであり、ゴールドマン・サックスおよび大和投資信託が上記ソフトコモディティの価格上昇および今後の状況を保証するものではありません。

ゴールドマン・サックスについては後述のページをご参照ください。

ソフトコモディティとは2

- 「食料」「飼料」「燃料」としての需要増加の一方で、「作付面積」「収穫量」の急激な増加は容易ではありません。
- 農産物はエネルギーや産業用金属に見られた劇的な価格上昇を迎えておりません。

農産物の需要と供給

需要

「飼料」、「バイオ燃料」の需要が加速化

1. Food: 食料

世界の人口増加による需要増加。

2. Feed: 飼料

家畜(牛・豚など)の飼料としての需要。
発展途上国の畜産物消費の増加等により需要増加。

3. Fuel: 燃料

バイオ燃料としての需要。
各国政府による政策的な推進が見込まれ需要増加。

供給

利用できる土地は有限、収穫率は停滞

1. 作付面積

利用できる土地は全体として限られ、今後も急激な増加は容易ではありません。どの農産物を作付けするのかは、農産物の収益性と、政策的な推進等により決定。

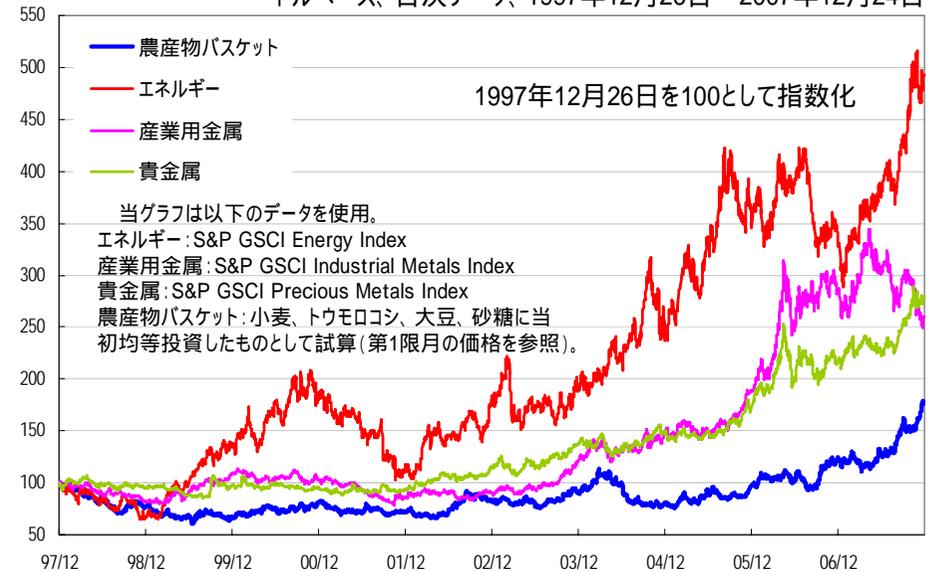
2. 収穫量

技術、天候、病気等により変動する。

今後は食料だけでなく、家畜(牛・豚など)のための「飼料」、ガソリンなどに代わる新たな「燃料」として、ますます需要が拡大していくことが考えられます。
一方で、作付面積は限られているため、農産物の増産には限界があると考えられます。

農産物バスケットと商品セクター指数の推移

ドルベース、日次データ、1997年12月26日～2007年12月24日



(注) S&P GSCI商品指数(S&P GSCI)は、商品(コモディティ)価格のベンチマークとして1991年にゴールドマン・サックスにより設計されたインデックスです。2007年12月現在、24の商品先物で構成され、世界生産金額により加重平均されています。
 S&P GSCI= S&P ゴールドマン・サックス・コモディティ・インデックスの略称

(出所) ゴールドマン・サックス証券株式会社

農産物価格は、エネルギーや産業用金属に見られた劇的な価格上昇を迎えていません。

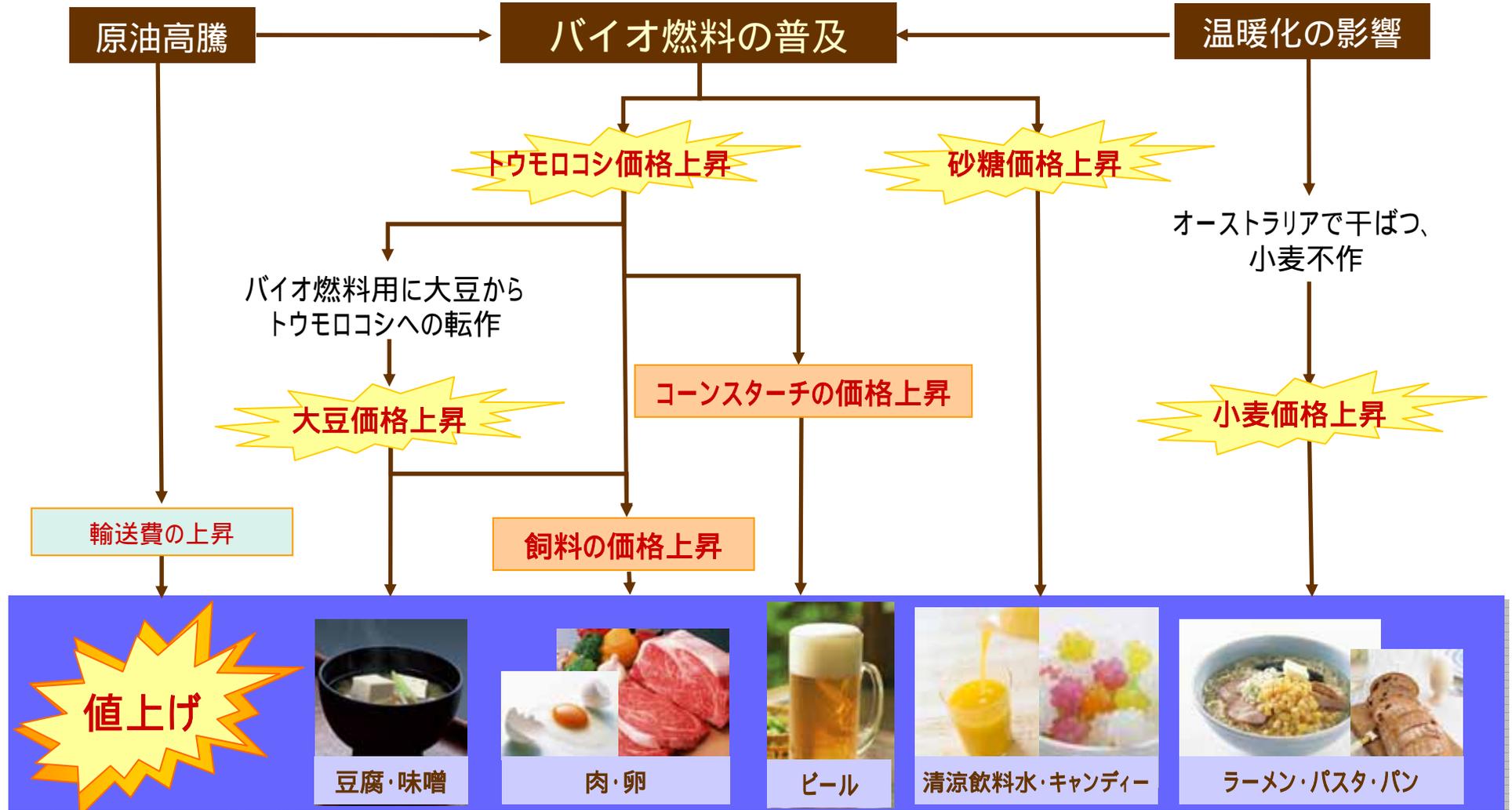
上図は参考のために、商品指数を使用したものです。当ファンドは、農産物価格連動債に投資するファンドであり、商品指数に投資または連動をめざすものではありません。

身の回りにあるモノの値上げ

- 最近、穀物価格の上昇の影響で食料品の連鎖的な値上げが浸透しつつあります。



農林水産省は2007年12月19日、政府が製粉会社に売り渡す輸入小麦の価格を2008年4月から、大幅に引き上げる見通しを表明。

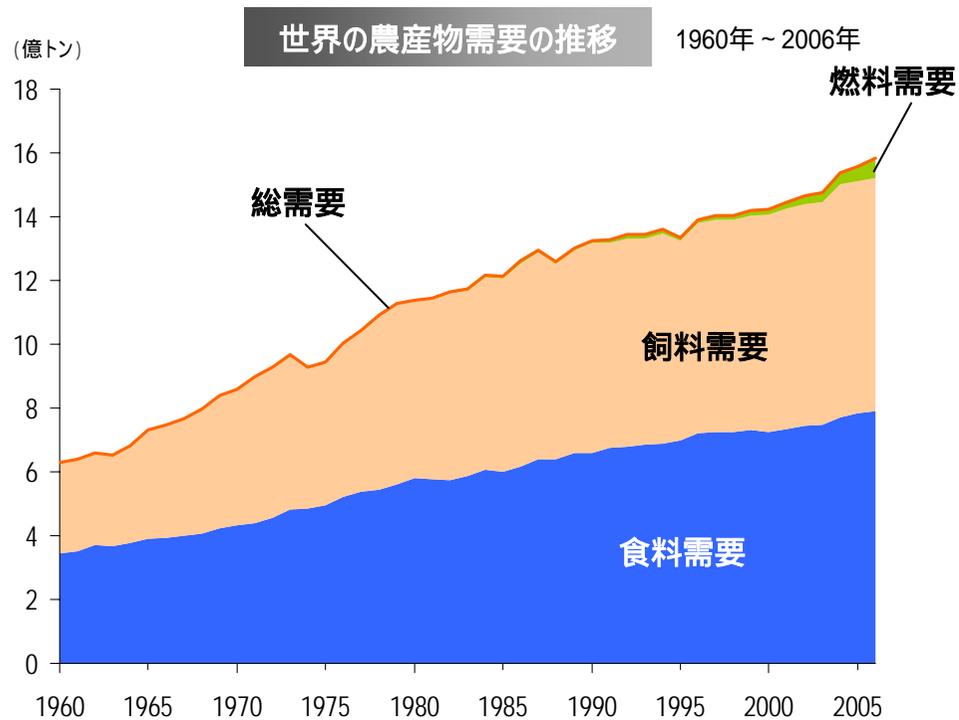


(注) 上記は、あくまでも過去の事象についての記載であり、将来においても同様の事象が起こることを示唆・保証するものではありません。

(出所) 農林水産省「今、我が国の食料事情はどうなっているのか」等資料より大和投資信託作成

農産物の3大需要～食料、飼料、燃料～

- 農産物の需要には、大きく分けて食料(Food)、飼料(Feed)、燃料(Fuel)の3つがあります。
- これまでは「食料」が大きな要因を占めていましたが、今後、「飼料」「燃料」としての農産物需要の増加が見込まれます。



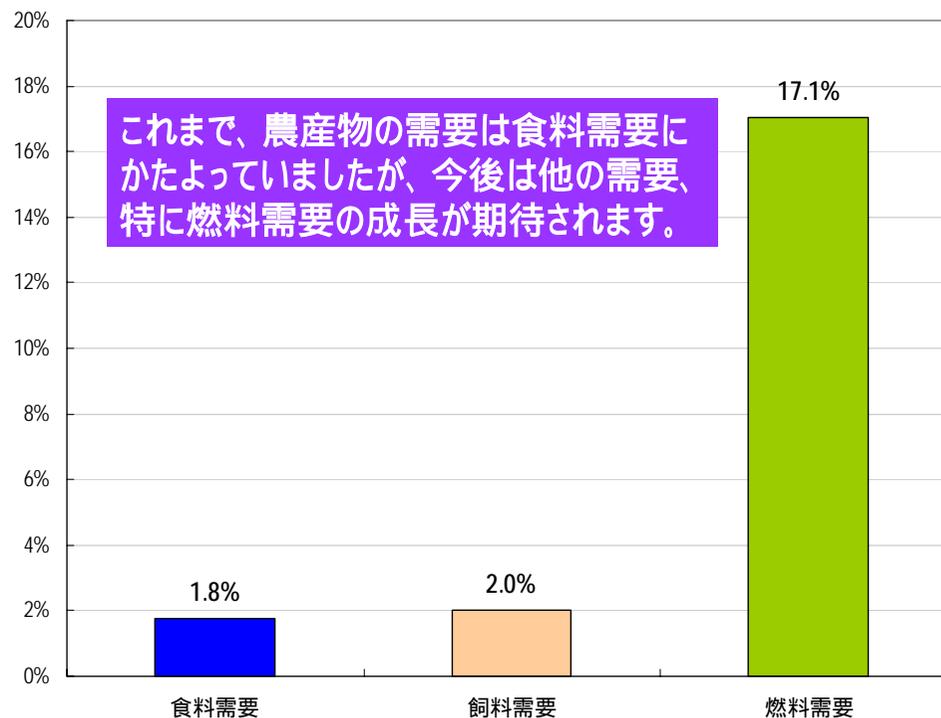
(出所)FAO(国連食料農業機関)、USDA(米国農務省)、
ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチ

2006年度のコモディティ別 需要構成比

	小麦	トウモロコシ	大豆	砂糖
食料	81%	26%	31%	85%
飼料	17%	67%	68%	0.4%
燃料	1%	7%	1%	14%

上記比率は、四捨五入の影響で100%にならないことがあります。
(出所) USDA、ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチ

農産物需要の成長率(年率換算)の比較



(出所)FAO、USDA、ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチのデータより大和投資信託作成
上記グラフにおいて、食料需要、飼料需要においては1960年からの年率換算の成長率を表示、
燃料需要においては、データの取得可能な1980年からの年率換算の成長率を表示。

「食料」：人口増加に伴った安定的な食料需要

「飼料」：BRICsや発展途上国では経済発展により食事の傾向が高タンパク質化

「燃料」：米国、欧州、ブラジル、中国のバイオ燃料利用政策を契機に需要が急拡大

飼料 (Feed) としての需要 1

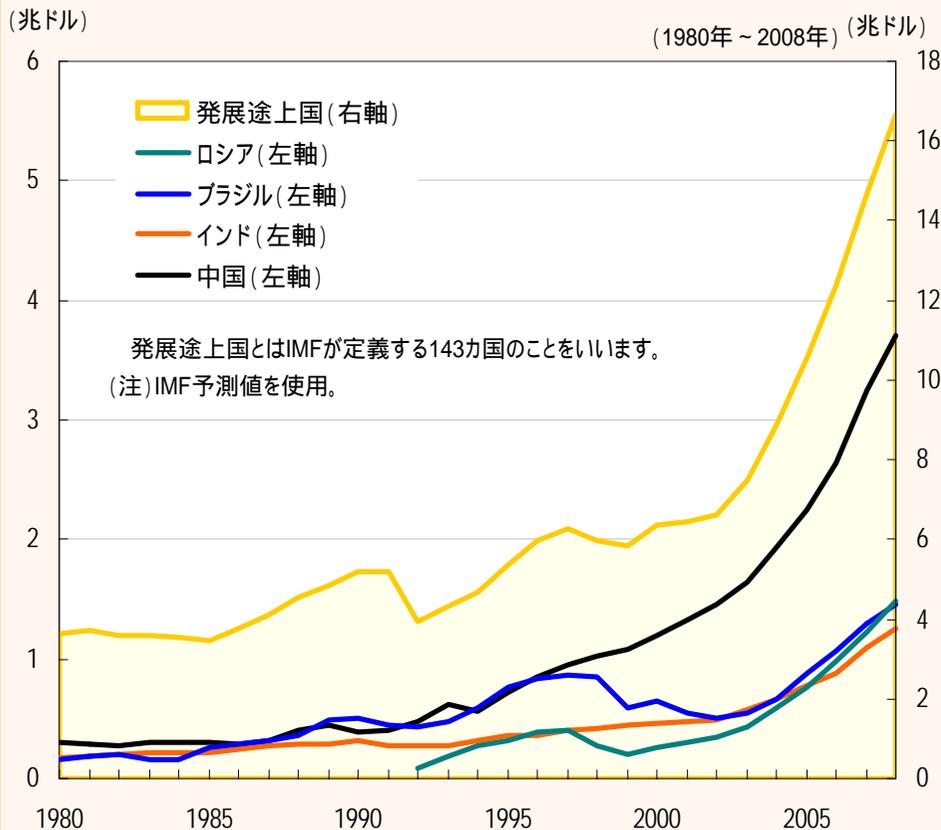
- タンパク質製品は一般的に穀物より高価なこともあり、タンパク質の需要の伸びは、所得の伸びと密接に結びついています。
- BRICsの成長を背景に一人当たりのタンパク質消費は伸びると予想されます。

発展途上国の成長

タンパク質消費の増加

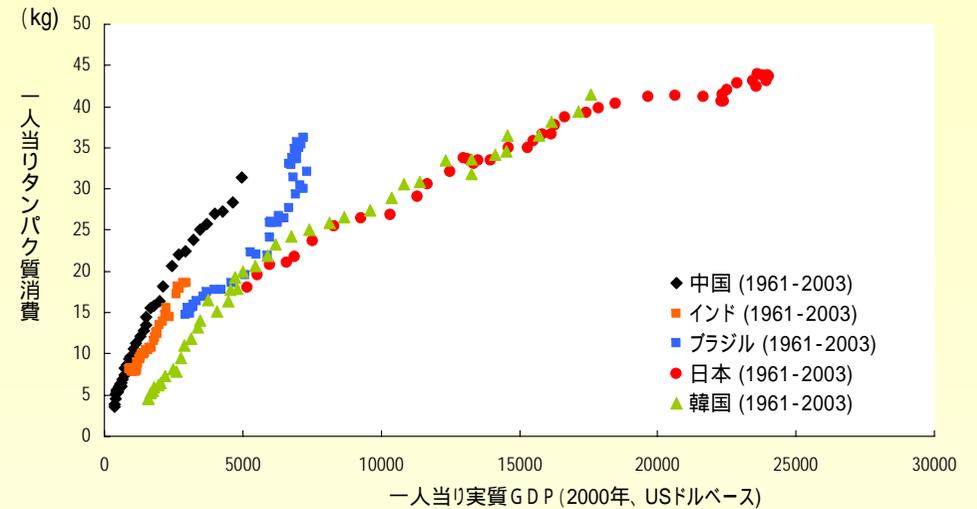
農産物需要の急増

発展途上国とBRICsの名目GDPの推移



(出所)IMF (国際通貨基金)「World Economic Outlook October 2007」
より大和投資信託作成

各国のタンパク質消費の推移



(出所)USDA、ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチ

牛肉の国別消費量比較



(出所)USDAより大和投資信託作成

飼料 (Feed) としての需要 2

●家畜(牛・豚など)を育てるには、大量の飼料が必要となります。したがって、畜産物に対する需要は、それ以上に穀物(トウモロコシ・大豆など)の需要を生みます。

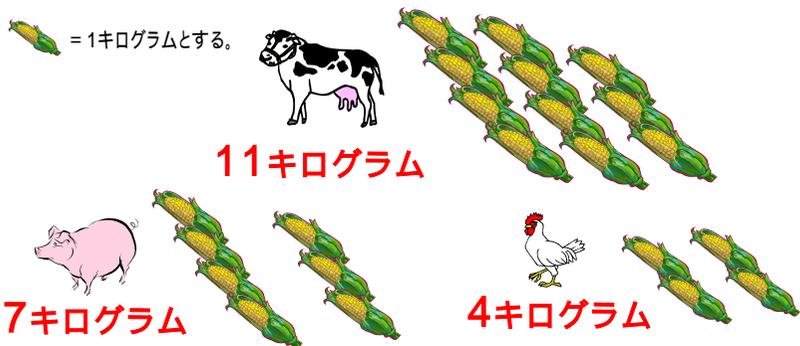
発展途上国の成長

タンパク質消費の増加

農産物需要の急増

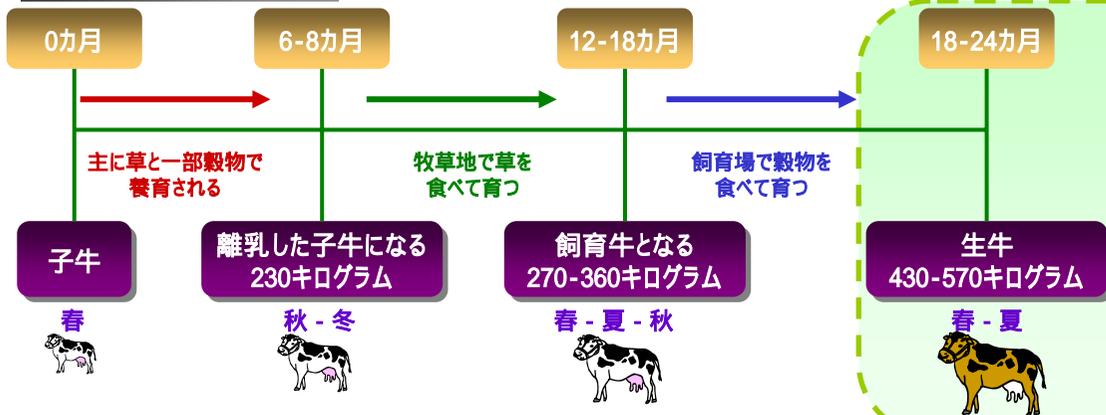
飼料としての農産物の効率

畜産物(部分肉等)の1キログラムの生産に要する飼料穀物



(注)トウモロコシ換算による試算
(出所)農林水産省データより大和投資信託作成

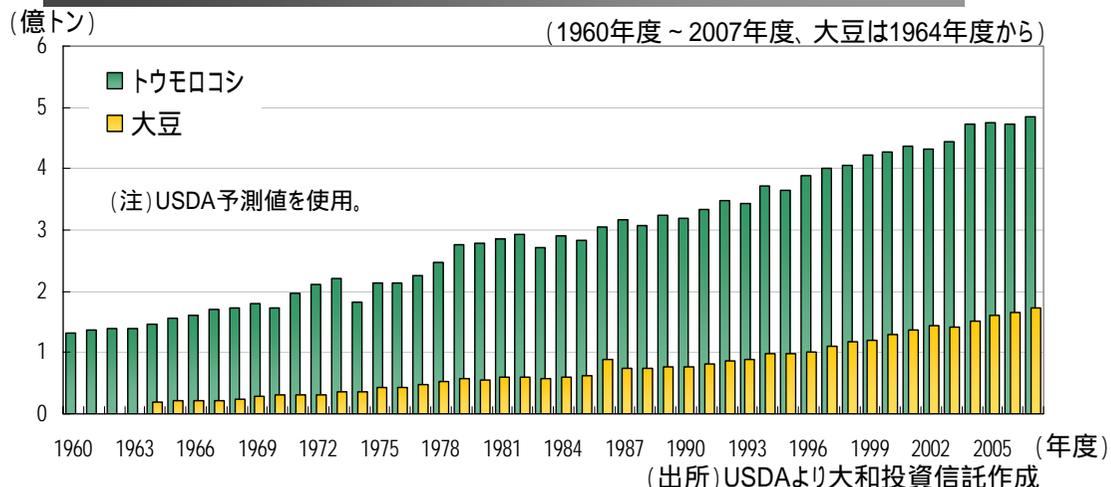
牛のライフサイクル



一般的に、牛は12-18か月まで、牧草地で草を食べて育ち、その後肥えた食肉にするために、飼育場で穀物を食べて育ちます。

一日当たりの体重増加量は約1.5キロです。
つまり、一日当たり一頭1.5キロ×11キロ = 約16キロの穀物を消費します。

飼料に使われているトウモロコシと大豆の消費量(世界)



(出所)USDA、ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチ

燃料 (Fuel) としての需要 1

- バイオ燃料とは、植物から作られる燃料をいいます。バイオ燃料は、『燃料エタノール』と『バイオディーゼル』に大きく分類できます。
- 世界的に見ると、燃料エタノールは、世界のバイオ燃料供給量のうち、より大きなシェアを占めており、2006年のバイオ燃料需要130億ガロンのうち、約87%が燃料エタノールで、約13%がバイオディーゼルでした。

バイオ燃料

ガソリン系

燃料エタノール

- 一般的にはガソリンと混合し、ガソリンを動力源とする車両で利用されます。
- 主に米国とブラジルで生産、利用されています。
- 米国ではトウモロコシ生産量のおよそ1割が、ブラジルでは製糖量(世界最大)のおよそ5割がエタノール生産に用いられます。



軽油系

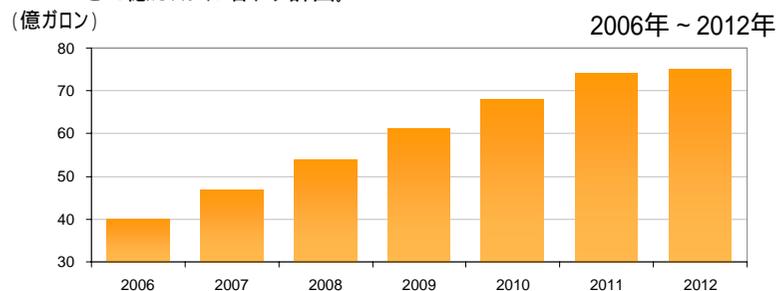
バイオディーゼル

- 一般に、軽油と混合した後、従来のディーゼルエンジンに対して使用されます。
- 主に欧州で、大豆などを原料に生産、利用されています。
- 混合率が20%以下であれば、通常の燃料として普通に利用することができます。
- 欧州委員会は、2010年までに、5.75%のバイオディーゼルの混合することを目標としています。



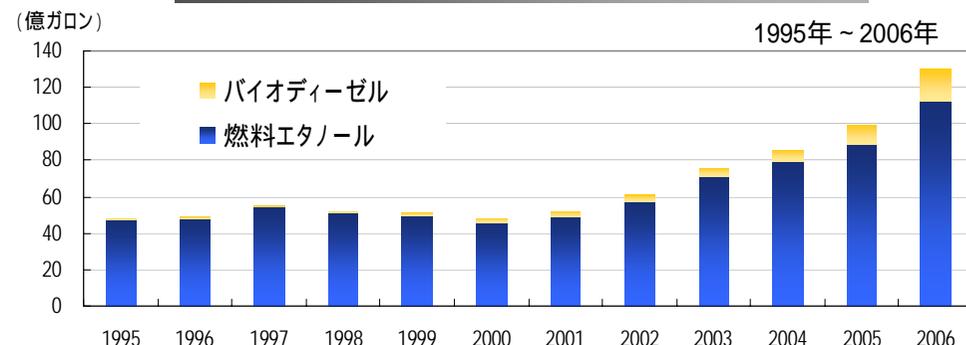
米国:再生可能燃料基準(RFS)プログラム

RFSプログラム: 再生可能燃料の使用増加を規定。2012年までに自動車向けバイオ燃料の使用量を75億ガロンに増やす計画。



(出所) RFA(再生可能燃料協会)より大和投資信託作成

バイオ燃料需要の推移



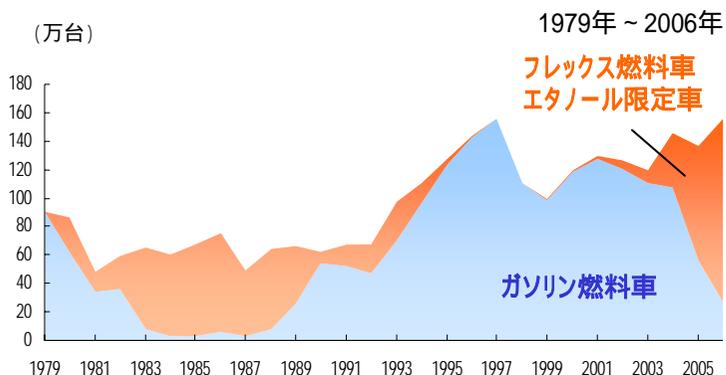
1ガロン = 約3.8リットル

(出所) ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチ

燃料 (Fuel) としての需要 2

- 世界41カ国が、今後10年間で『燃料エタノール』と『バイオディーゼル』の利用を推進する政策を打ち出しています。(2007年3月現在)
- 世界的な取組みである地球温暖化問題への解決策として、その利用を促進する政策が採択され始めています。また、枯渇が心配されている化石燃料に対し、バイオ燃料は持続的利用可能な原料であることも支援材料となっています。

ブラジルでの新車販売台数の内訳



(出所) ANFAVEA (ブラジル自動車工業会)、
ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチ
フレックス燃料車・・・ガソリンとアルコールを混入した燃料を使用した車

ブラジルで普及しているエタノール燃料

1973年のオイルショックを契機に、サトウキビを原料としたエタノールで石油を代替する「国家アルコール計画」を実施、1980年代を通じて自動車燃料をまかなうまでに発展しました。その後、1991年に、多額の政府補助を必要とする「国家アルコール計画」は廃止され、エタノール燃料車の需要は一時急速に落ち込みました。しかし、近年、原油価格の高騰を受けてエタノール燃料車が見直され、フレックス燃料車とエタノール限定車は2006年のブラジルにおける新車販売台数の80%以上を占めています。

各国政府によるバイオ燃料普及政策



(注) ジャトロファとは、南アジア・アフリカなどに自生している植物で、種子に約50%の油を含み、その油からバイオディーゼル燃料を作ることができます。非食用バイオディーゼル農産物の中で最も効率の良い農産物です。

(出所) ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチ

供給 1 収穫面積の推移

- 世界の作付面積が減少傾向にあり、農産物の供給減少が懸念されています。
- ある農産物の増加は、別の農産物の減少をあらわし、供給が不安定になることが懸念されています。

小麦: 低水準の在庫レベル、世界第3位の輸出国である豪州の干ばつ

トウモロコシ: 低い水準にある在庫量

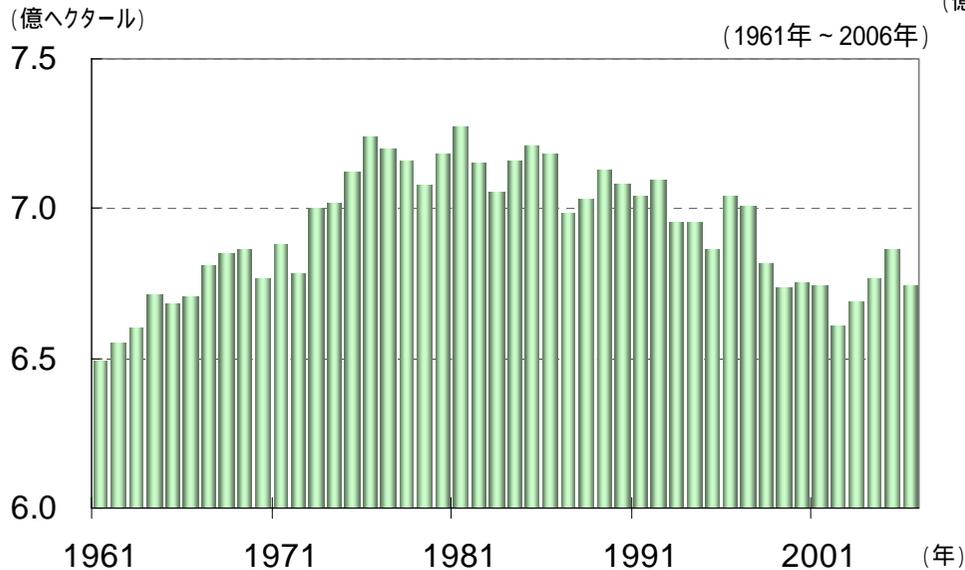
大豆: 食用需要については弾力性に欠けるものの、
餌の需要に関してはトウモロコシ、大麦、小麦などとの代替が可能

穀物の種類によっては同じ畑で生育することが可能で、農家の意思により作付けする農産物を毎年変えることができます。

より高値圏にある穀物に対する作付けの拡大から他の穀物の作付け・収穫の縮小懸念の顕在化が多々見られます。

世界の穀物収穫面積の推移

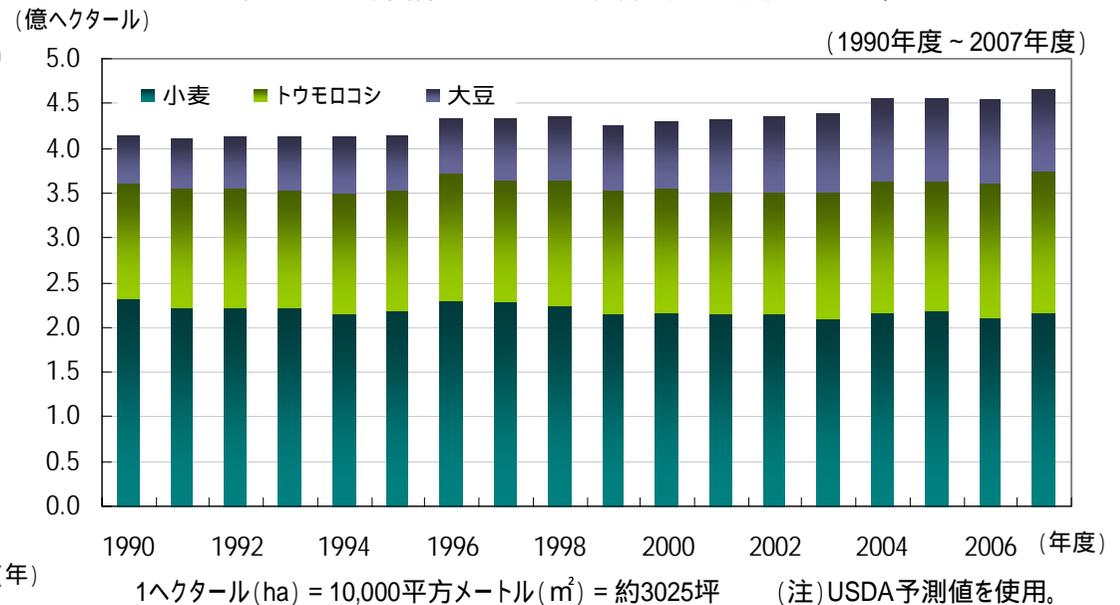
発展途上国の工業化や都市化の影響により、穀物を生産する農地の収穫面積は今後も伸び悩むと考えられます。



(出所)FAOSTATより大和投資信託作成

小麦、トウモロコシ、大豆の収穫面積の推移

小麦、トウモロコシ、大豆は、それぞれ単一の同じ畑で作付け・収穫されます。そのため、それぞれの需給状況が互いに影響を及ぼすと考えられます。



(出所)USDAより大和投資信託作成

供給 2 地球温暖化などによる異常気象の影響

- 地球温暖化などの影響により、世界各地でさまざまな気候の変化や海面上昇が予測され、作付面積の減少により農産物の生産量が減少する可能性があります。

国際的な食料事情の変化(予測)

・中央・南アジアは、21世紀半ばまでに、**穀物生産量が最大30%減少**

・南アメリカは、より乾燥した地域では、農地の塩類化と砂漠化により、**農産物・家畜の生産力が減少**

・南ヨーロッパの一部は、高温と干ばつが悪化し、**農産物生産が減少**

・アフリカは、栽培適地の減少等により、**降雨依存型農業の収穫量が2020年までに50%程度減少**



今後、化石エネルギーを重視しつつ高い経済成長を実現する社会においては、

21世紀末には、約4.0℃ 平均気温が上昇と予測

21世紀末には、26cm～59cm海面が上昇と予測

(出所) 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次評価報告書

米国農務省(USDA)はハリケーン「カトリーナ」等による農産物の被害は総額で10億7,700万ドルと発表。(2005年)

地球温暖化の影響による海面の上昇で、ガンジスデルタ内のスンドルバンス国立公園では、これまでに2つの島が水没した。(2006年)

アフリカ大陸では、西部から東部にかけて20カ国以上に及ぶ広域で、7月以降激しい雨が続き、各地で甚大な洪水被害。(2007年)

小麦の主要輸出国であるオーストラリアにおいて、2年連続して大干ばつが起こり、2006年の小麦の生産量は2005年と比較し、40%程度まで減少した。(2006年、2007年)

(出所) 農林水産省「今、我が国の食料事情はどうなっているのか」より大和投資信託作成

(出所) 各種資料より大和投資信託作成

ファンドの目的および特色

ファンドの目的

当ファンドは、

元本確保目標日(平成25年1月31日)において、豪ドル建の農産物価格連動債への投資を通じて、農産物商品先物(小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖)の値動きに一定の比率で連動した収益の獲得
元本確保目標日における豪ドル建での当初投資元本の確保

をめざします。

農産物価格連動債の連動率は、ファンドの運用開始後、平成20年2月11日(日本の2月12日)に決定されます。

ファンドの特色

1. 当ファンドは、元本確保目標日(平成25年1月31日)において農産物商品先物(小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖)(以下、「農産物」といいます)の値動きに一定の比率(以下、「連動率」といいます)で連動した収益の獲得をめざします。
* 当ファンドは途中換金時における農産物のバスケット価格への連動をめざすものではありません。
2. 元本確保目標日における豪ドル建での当初投資元本の確保をめざします。
* 元本確保目標日以前に換金を行なった場合には、取引日の基準価額が適用されます。この場合、豪ドル建での当初投資元本を下回る可能性があります。
* 投資する農産物価格連動債の発行体の債務不履行等によって、元本確保目標日以後も豪ドル建での当初投資元本を下回る可能性があります。
3. 当ファンドは、ファンドの資産のほぼすべてをゴールドマン・サックス・インターナショナルがアレンジする豪ドル建の農産物価格連動債に投資します。
4. 元本確保目標日前のいずれかの取引日において、基準価額が当初投資元本の2倍以上に上昇すると投資運用会社が予想する場合、管理会社は繰上げ償還を決定します。繰上げ償還が決定されると投資運用会社は農産物価格連動債を売却し、リターンの確保をめざします(収益ロックインと呼びます)。ファンドはその後繰上げ償還します。
5. ファンドは、平成25年2月28日に満期償還します。元本確保目標日(平成25年1月31日)から償還日まで、短期預金および短期金融商品に投資し、元本の保全をめざします。

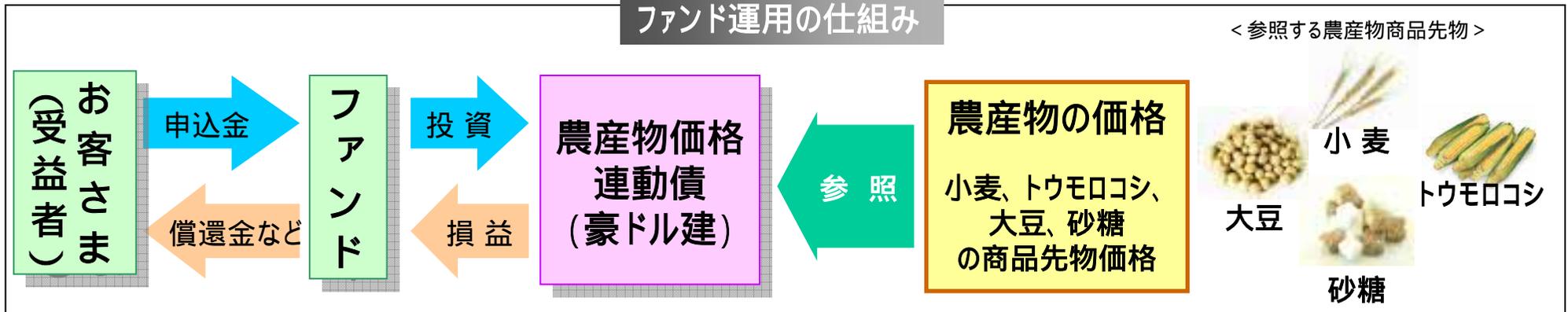
大量の買戻しが生じたとき、市況の急激な変化が予想されるとき、その他特殊な状況等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

農産物価格連動債に投資します

当ファンドは、元本確保目標日(平成25年1月31日)において農産物商品先物(小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖)(以下、「農産物」といいます)の値動きに一定の比率(以下、「連動率」といいます)で連動した収益の獲得をめざします。

当ファンドは途中換金時における農産物のバスケット価格への連動をめざすものではありません。

ファンド運用の仕組み



当ファンドは、ファンドの資産のほぼすべてをゴールドマン・サックス・インターナショナルがアレンジする豪ドル建の農産物価格連動債に投資します。

ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク(連結子会社も含む)は、投資銀行業務、証券業務および資産運用業務を中心に、多岐にわたるグローバルな金融サービスを世界中の企業、金融機関、政府機関等に提供している世界有数の投資銀行です。1869年創業の世界で最も伝統のある最大手の投資銀行のひとつであり、ニューヨークを本拠地として、ロンドン、フランクフルト、東京、香港およびその他の世界の主要な金融市場に拠点を擁しています。コモディティ・ビジネスにおいては、長年にわたる現物やデリバティブ取引における経験とノウハウを活かしたコモディティ・リスクの管理やコモディティを利用した資産運用などのソリューションを提供しています。ゴールドマン・サックス・インターナショナルはザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インクの子会社です。

農産物価格連動債の発行体「スウェーデン輸出信用銀行(SEK)」について

スウェーデン輸出信用銀行(SEK)は、1944年制定のスウェーデン会社法に基づいて組織された公開株式会社です。スウェーデン輸出信用銀行は、外務省を通じてスウェーデンにより100%その株式を所有されています。スウェーデン輸出信用銀行は長期融資の需要に応え、スウェーデンの輸出産業の競争力を強化するため、1962年に設立されました。スウェーデン輸出信用銀行の目的は、金融活動に従事し、主にスウェーデンの商業および産業の発展を促進すること、ならびにその他商業分野においてスウェーデン国内の金融活動および国際的な金融活動を行なうことです。

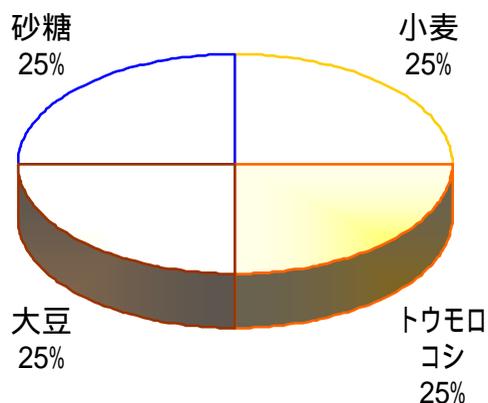
SEK(発行体)の格付は、「Aa1」(ムーディーズ社)、「AA+」(スタンダード&プアーズ社)。平成19年12月時点

農産物価格連動債について

A.農産物価格連動債は、農産物商品先物の値動きに一定の比率(連動率)で連動した価格で償還します。ただし、償還価格は豪ドル建での元本(以下、「元本」といいます)確保をめざします。

B.農産物価格連動債の参照する価格は、小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖のバスケット価格で、それぞれの商品先物価格はスタート時点とエンド時点の下記の商品先物取引所の期近先物価格の終値を参照します。
バスケット価格:小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖の価格をそれぞれ指数化し、25%ずつ乗じた総和となる価格とします。(スタート時点 = 100)

参照する価格は期近先物価格(第1限月の価格)です。ただし、第2限月の価格を参照することがあります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。



	配分	取引所
小麦	25%	シカゴ商品取引所(CBOT)
トウモロコシ	25%	シカゴ商品取引所(CBOT)
大豆	25%	シカゴ商品取引所(CBOT)
砂糖	25%	インターコンチネンタル取引所(ICE)

*「砂糖」はICE砂糖#11を参照します。

*参照する上記取引所の商品先物価格は、米ドル建です。パフォーマンスは米ドル建で計算します。なお、取引所の合併等があった場合は上記取引所からの変更等が農産物価格連動債の計算代理人によって決定される場合があります。

C.農産物価格連動債の償還価格は、バスケットの価格変動から得られるパフォーマンスに連動率を掛け合わせて計算されます。ただし、パフォーマンスがマイナスの場合は、元本での償還をめざします。

D.連動率はファンドの運用開始後、平成20年2月11日(日本の2月12日)に決定される予定です。

(連動率は、債券の償還時にのみ適用されるものであり、償還時より前においてはバスケットのパフォーマンスに連動する割合は限定的となります)

農産物バスケット価格のパフォーマンスのイメージ

農産物価格連動債の償還価格の決定方法

(パフォーマンスが > 0 の場合)

$$\text{農産物価格連動債の償還価格} = \text{元本} + \text{元本} \times \text{パフォーマンス} \times \text{連動率}$$

①

②

(パフォーマンスが 0 の場合)

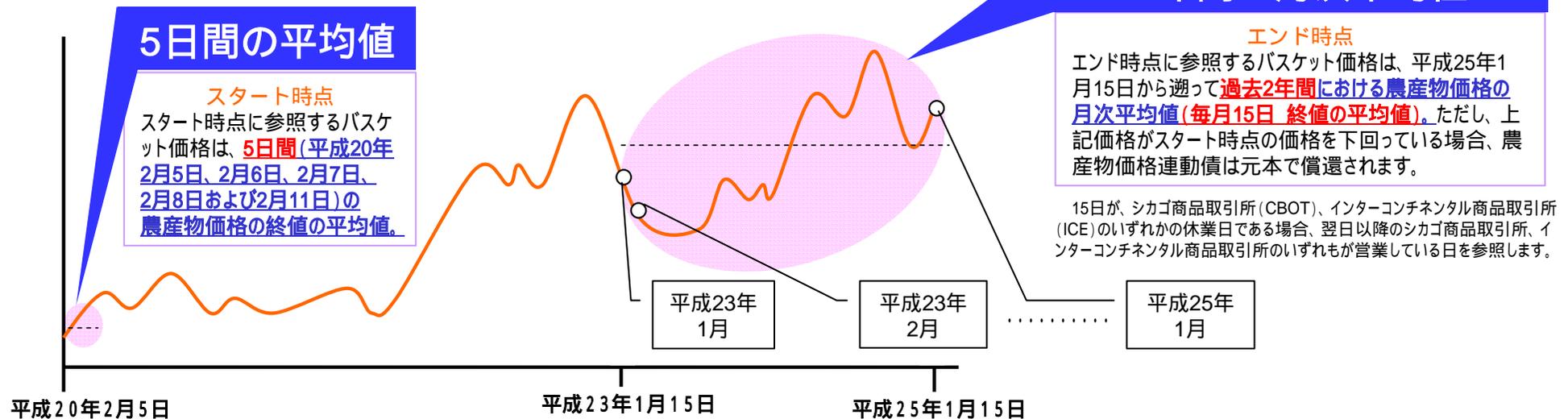
$$\text{農産物価格連動債の償還価格} = \text{元本}$$

① パフォーマンスの計算方法

$$\text{パフォーマンス} = \frac{(\text{エンド時点の農産物のバスケット価格} - \text{スタート時点の農産物のバスケット価格})}{\text{スタート時点の農産物のバスケット価格}}$$

- (1) パフォーマンスとは、スタート時点とエンド時点における農産物のバスケット価格(以下の平均値)の騰落率となります。
- (2) 参照する農産物のバスケット価格は、米ドル建です。パフォーマンスは米ドル建で計算します。

スタート時点・エンド時点に参照する農産物バスケット価格の平均値(イメージ図)



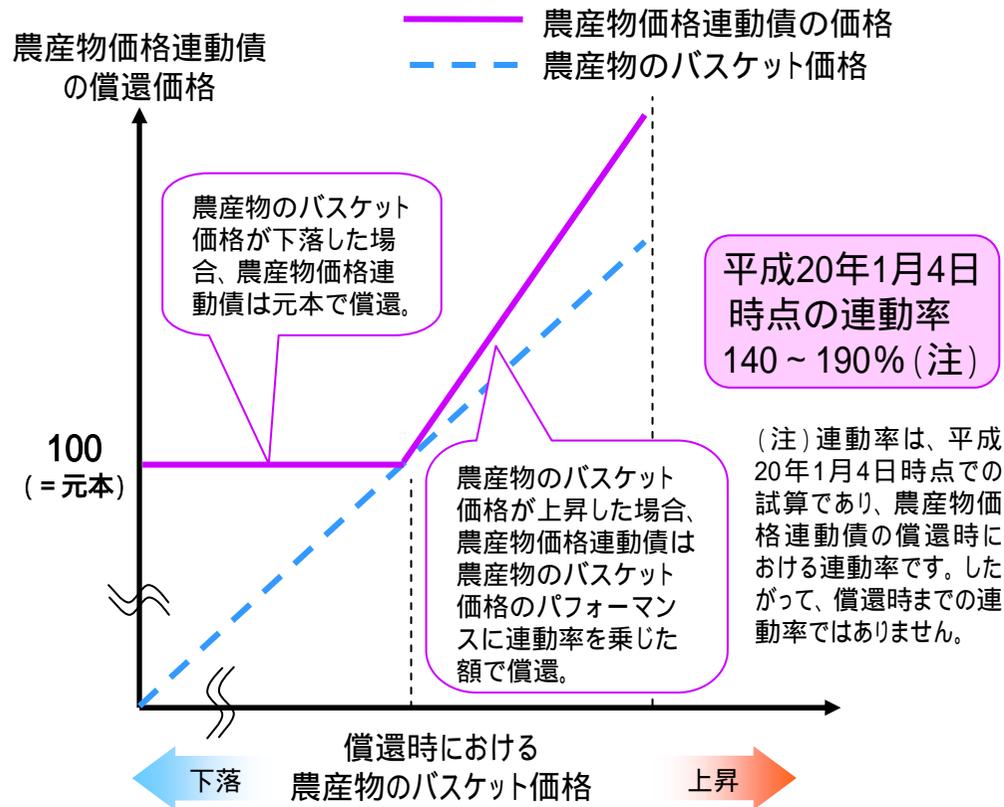
(注) 上図はイメージであり、将来の成果および元本の安全性を示唆・保証するものではありません。

(注) 上記のイメージ図は、実際の農産物のバスケット価格の動きとは一致しません。

農産物価格連動債の償還時について

② 連動率について

農産物価格連動債の償還時における連動率のイメージ図



上記のイメージ図は農産物価格連動債の償還時におけるものであり、実際の償還価格とは異なります。また、途中換金または収益ロックインの場合において、上記のイメージ図はあてはまりません。

(ご参考) 償還時における農産物のバスケット価格と農産物価格連動債の償還価格の関係および為替レートの影響のイメージ

< 前提条件 >

農産物のバスケット価格の当初価格 100
 ファンド募集最終日時の為替レート 1豪ドル = 100円
 連動率150%で試算した場合の数値。

償還時における農産物のバスケット価格	農産物価格連動債の償還価格 (豪ドル)	年間リターン (単利、豪ドル)	円ベースの投資元本倍率				
			募集最終日の豪ドル為替レート				
			80	90	100	110	120
167	2,000	20%	160%	180%	200%	220%	240%
150	1,750	15%	140%	158%	175%	193%	210%
140	1,600	12%	128%	144%	160%	176%	192%
130	1,450	9%	116%	131%	145%	160%	174%
120	1,300	6%	104%	117%	130%	143%	156%
110	1,150	3%	92%	104%	115%	127%	138%
100	1,000	0%	80%	90%	100%	110%	120%
90	1,000	0%	80%	90%	100%	110%	120%
80	1,000	0%	80%	90%	100%	110%	120%
70	1,000	0%	80%	90%	100%	110%	120%

上記は、あくまでも償還時における農産物のバスケット価格と農産物価格連動債の償還価格の関係であり、ファンドの運用成果とは異なります。また、実際の農産物のバスケット価格および為替レート等を示唆・保証するものではありません。

豪ドル建での元本確保をめざします

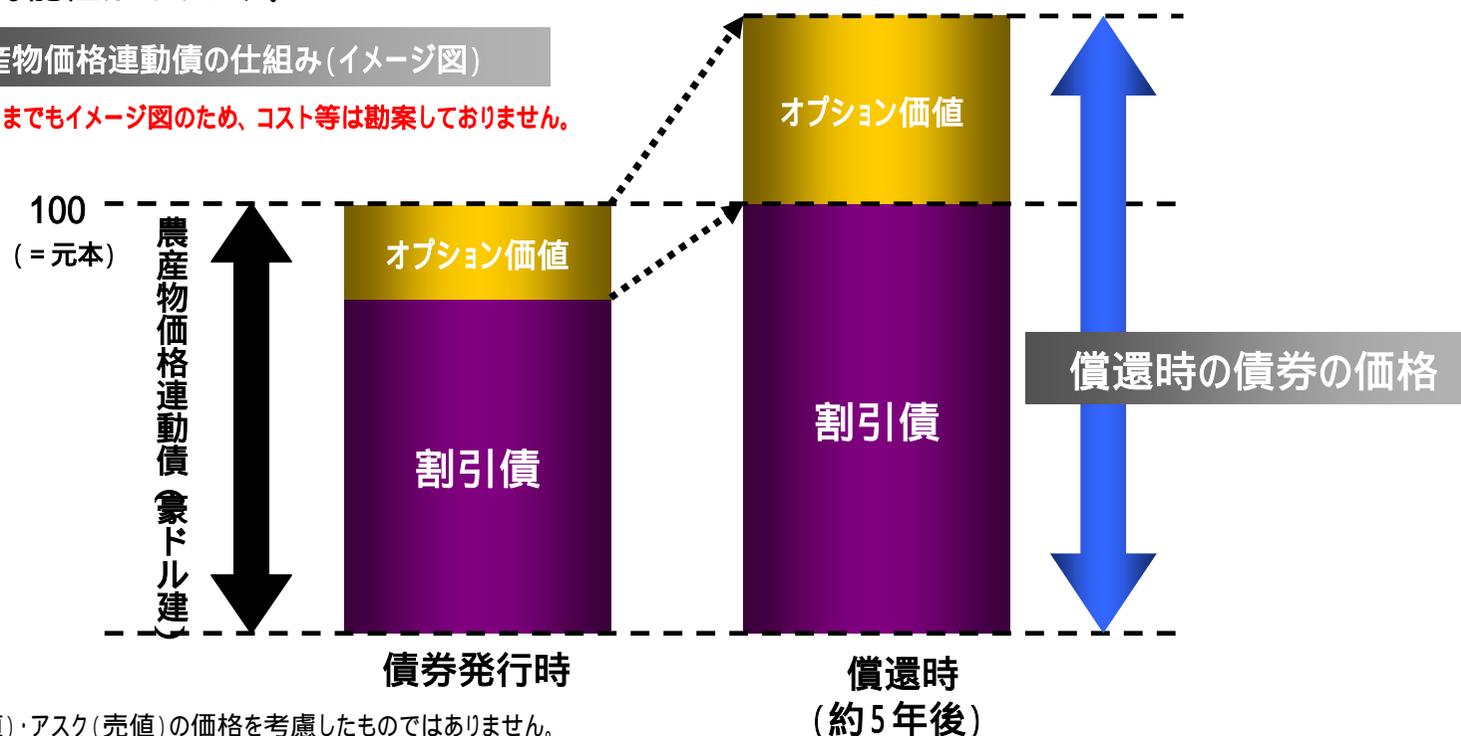
元本確保目標日における豪ドル建での当初投資元本の確保をめざします。

元本確保目標日以前に換金を行なった場合には、取引日の基準価額が適用されます。この場合、豪ドル建での当初投資元本を下回る可能性があります。

投資する農産物価格連動債の発行体の債務不履行等によって、元本確保目標日以後も豪ドル建での当初投資元本を下回る可能性があります。

農産物価格連動債の仕組み(イメージ図)

あくまでもイメージ図のため、コスト等は勘案していません。

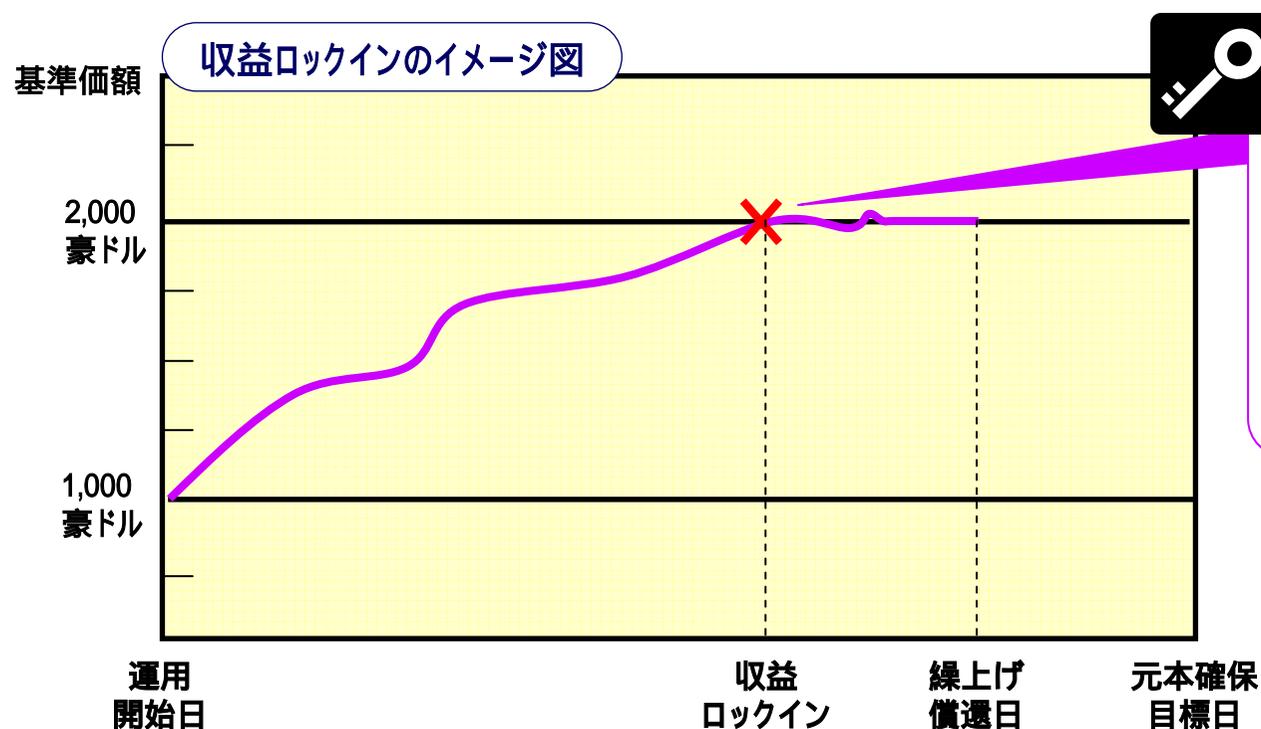


ビッド(買値)・アスク(売値)の価格を考慮したものではありません。
オプション価値はゼロとなることもありますが、その場合は元本での償還をめざします。

ファンドは、平成25年2月28日に満期償還します。元本確保目標日(平成25年1月31日)から償還日まで、短期預金および短期金融商品に投資し、元本の保全をめざします。

当初投資元本の2倍以上に上昇すると予想する場合、繰上げ償還します

元本確保目標日前のいずれかの取引日において、基準価額が当初投資元本の2倍以上に上昇すると投資運用会社が予想する場合、管理会社は繰上げ償還を決定します。繰上げ償還が決定されると投資運用会社は農産物価格連動債を売却し、リターンの確保をめざします(収益ロックインと呼びます)。ファンドはその後、繰上げ償還します。

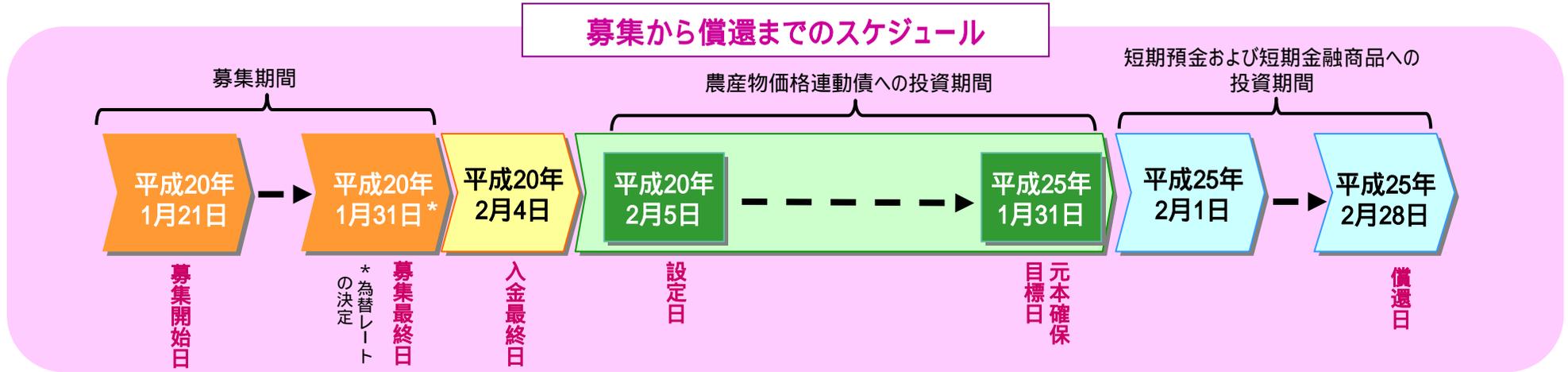


管理会社が繰上げ償還を決定(収益ロックイン)をすると、農産物価格連動債は売却されます。

その後、ファンドは短期預金・短期金融商品に投資するファンドとして運用されます。

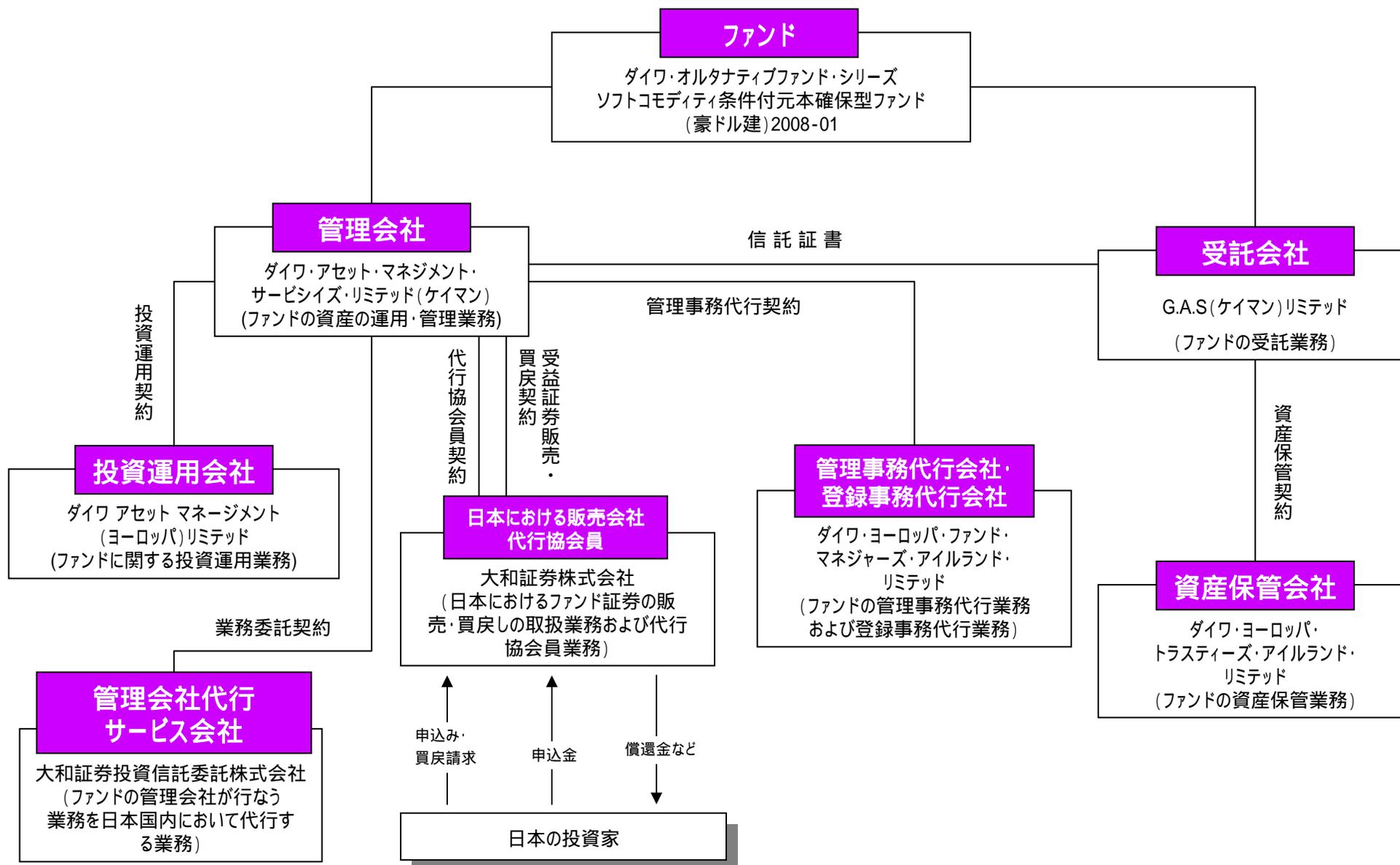
(注)上記は、収益ロックインを説明するためのイメージであり、将来の成果および元本の安全性を保証するものではありません。また、実際の基準価額の動きとは一致しません。繰上げ償還となった場合、ファンドにかかる費用、農産物価格連動債の実際に売却できた価格等により、必ずしも基準価額が当初投資元本の2倍以上になるとは限りません。

スケジュールについて



(注)ファンドの「取引日」とは、平成20年3月以降の毎週最終営業日、元本確保目標日以後償還日までの毎営業日および収益ロックインの発生により繰上げ償還が決定された取引日から約3週間後の管理会社が決定する日以降繰上げ償還日までの毎営業日をいいます。ただし、繰上げ償還が決定された取引日から約3週間後までの間も、毎週最終営業日を取引日とします。「営業日」とは、東京証券取引所、ニューヨークの銀行、ロンドンの銀行、シドニーの銀行、ダブリンの銀行のいずれかが営業している日をいいます。日本における約定日は、日本において販売会社が当該注文の成立を確認した日(以下「約定日」といいます。通常、取引日の翌営業日)であり、日本における買戻し代金の支払いは、日本における約定日から起算して日本の営業日で4営業日目に行なわれます。

ファンドの仕組み

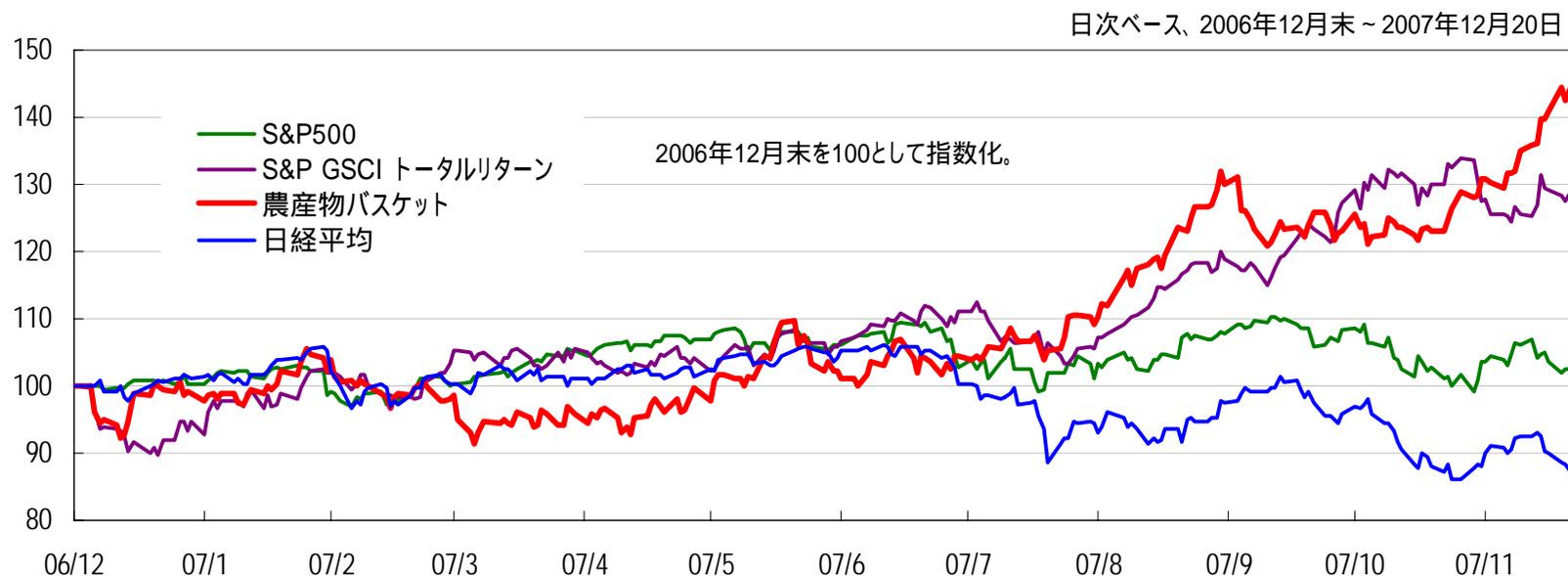


(ご参考) 株価指数と農産物バスケットの推移比較

2007年8月に入り、サブプライムローン問題を背景に株式市場などの金融・資本市場は軟調な展開となりました。金融・資本市場が動揺している一方で、コモディティというリスク資産からの資金の逃避 = コモディティの売却という反応は起きず、足元の需要を反映して堅調な推移を示しました。

確かに、市場における不安心理が、マネーから实体经济に波及すると、コモディティ5セクター(エネルギー、非鉄金属、農産物、畜産物、貴金属)の中で、特に景気に敏感な非鉄金属セクターだけは、昨今の供給過剰気味というファンダメンタルズの悪化に拍車をかけて地合いが弱くなり、軟調な展開となりました。

一方で、農産物セクターやエネルギーセクターは、需給が非常にひっ迫している現状を反映して、相変わらず堅調な推移となっています。これは、コモディティの特色である伝統的資産(株式、債券など)との非相関性を顕著に反映していると同時に、金融・資本市場からコモディティ・マーケットへの投資資金の還流を意味していると思われます。



(注) 農産物バスケットとは、小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖25%ずつで構成されたバスケットの試算です(第1限月の価格を参照)。

(出所) ブルームバーグより大和投資信託作成

(注) 上記グラフは、あくまでも参考のため記載したものであり、元本の安全性および将来の投資成果を示唆・保証するものではありません。

(ご参考) 豪ドル投資の魅力

オーストラリアは豊富な資源に恵まれており、財政状況も良好で、国債の格付は最上位を示すAAA(トリプル・エー)です。また、利回り水準が主要先進国の中で相対的に高く、豪ドルは堅調に推移しています。

オーストラリアの資源

採掘量順位(世界シェア)

他の主要生産国

金	2位(10.6%)	1位南ア(11.9%)、3位米国(10.4%)、4位中国(9.1%)
鉄鉱石	3位(17.0%)	1位中国(27.3%)、2位ブラジル(18.2%)、4位インド(9.1%)
ダイヤモンド (工業用)	2位(24.7%)	1位コンゴ民主共和国(30.9%)、3位ロシア(18.5%)、4位南ア(11.1%)

(出所)USGS『MINERAL COMMODITY SUMMARIES 2007』(データは2005年)

各国の格付

(2007年12月末)

国名	ムーディーズ	S&P
オーストラリア	Aaa	AAA
アメリカ	Aaa	AAA
ドイツ	Aaa	AAA
イタリア	Aa2	A+
日本	A1	AA

(出所)ムーディーズ、S&Pより大和投資信託作成

各国の5年国債利回り

(2007年12月末)

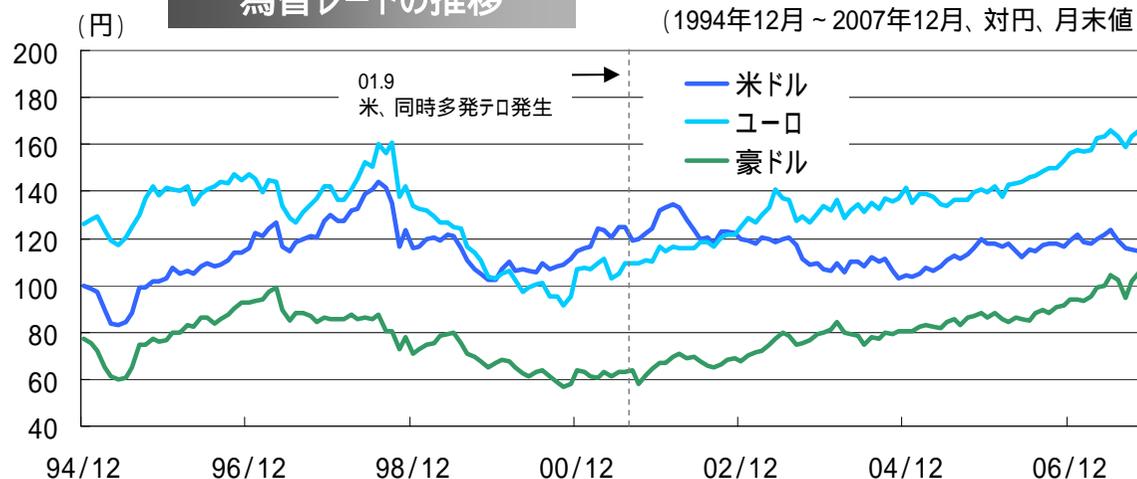


海外の債券には為替リスクがあります。表示の利回りは税引前です。

(出所)ブルームバーグより大和投資信託作成

為替レートの推移

(1994年12月～2007年12月、対円、月末値)



(出所)ブルームバーグより大和投資信託作成

(注)上記は、あくまでも参考のため記載したものであり、元本の安全性および将来の投資成果を示唆・保証するものではありません。

(ご参考) 4つのソフトコモディティ 1

小麦

注目

食料需要の割合が高い小麦ですが、特に、豪州や米国における生産量、輸出量の状況は我々の身近な食料価格に大きな影響を及ぼす可能性があるため注目です。

米セント/ブッシェル

小麦先物(第1限月)



大豆

注目

中国による食料、飼料向け輸入の状況や欧州におけるバイオディーゼル燃料向け需要が注目です。また、供給面では、米国におけるトウモロコシとの作付面積割合が重要と思われま

米セント/ブッシェル

大豆先物(第1限月)



(注) 上記の見通しは、あくまでも現時点におけるものであり、今後の動向等を保証するものではありません。

(注) 上図は、あくまでも参考のため記載したものであり、元本の安全性および将来の投資成果を示唆・保証するものではありません。(出所)ブルームバーグデータ(月末値)より大和投資信託作成、2007年11月末現在

トウモロコシ

注目

飼料用需要の増加に加え、燃料向け需要が急増しているトウモロコシは、特に、エタノール燃料向けとして米国での需要拡大が注目です。

米セント/ブッシェル

トウモロコシ先物(第1限月)



砂糖

注目

エタノール燃料の原料として、ブラジルでの需要拡大が注目です。また、供給面では、大豆との転作で価格が高騰している耕地の確保が重要と思われま

米セント/ポンド

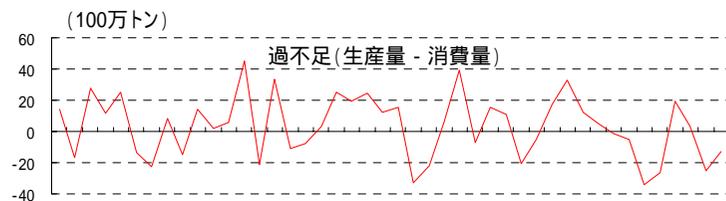
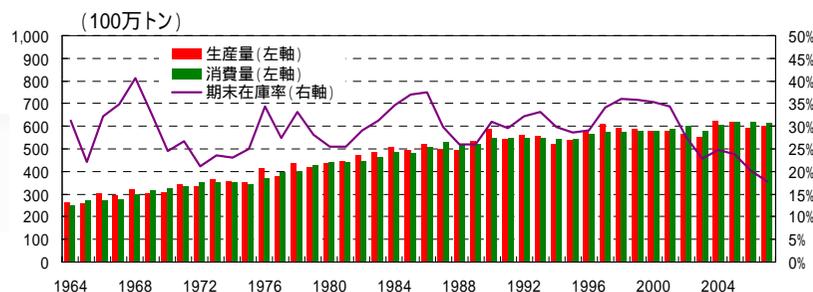
砂糖先物(第1限月)



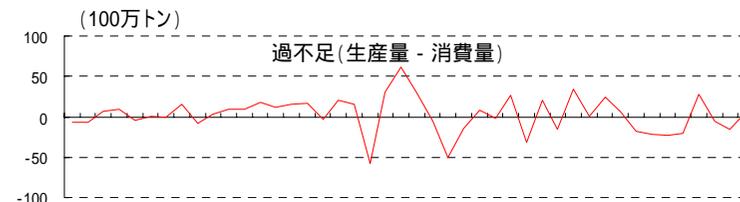
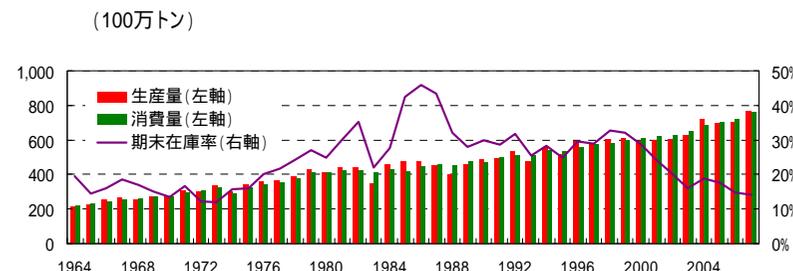
(ご参考) 4つのソフトコモディティ 2

農産物価格の上昇は、農産物に対する「食料」「飼料」「燃料」の需要の組み合わせによる、需要全体の上昇に起因するものと考えられます。

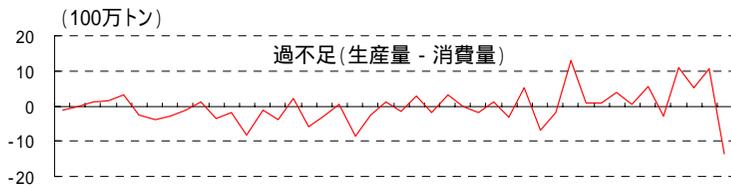
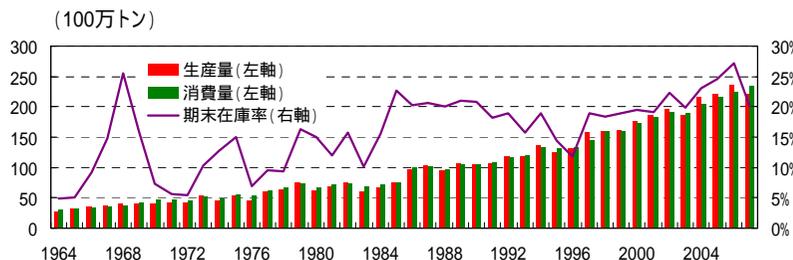
小麦



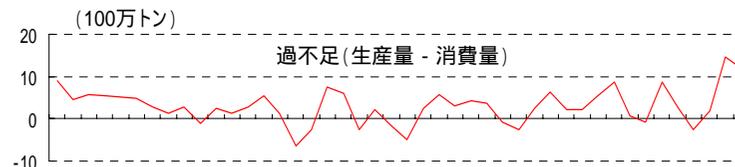
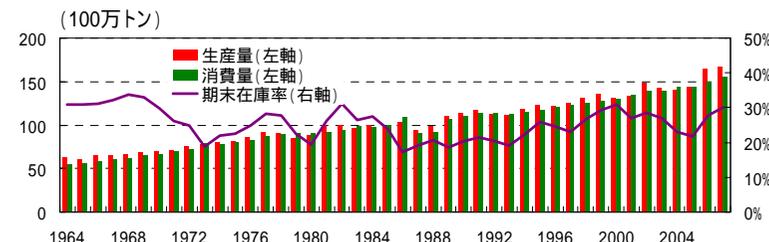
トウモロコシ



大豆



砂糖



期間:1964年度～2007年度
 期末在庫率 = 期末在庫 ÷ 消費量 × 100%
 (出所) USDAより大和投資信託作成

(ご参考) 小麦、トウモロコシ、大豆、砂糖の豆知識



大豆

同じ耕地で栽培可能、値動きに関連性

マメ科の一年草。
綿花やトウモロコシの代替作物として使用されることも(逆もまた同様に)あります。
主な用途: 搾油用(75%)、食品用(25%)
主な生産地: 米国(アイオワ、イリノイ州を中心としたコーンベルト)、ブラジル、アルゼンチン

ちなみに...

豆腐の消費No.1は

日本で最も豆腐の消費量が多い地域は、岩手県盛岡市。平成17年において、1世帯当り年間の購入量は約105丁でした。一方、最も消費量が少ないのは北海道札幌市で、およそ54丁。首位と最下位の間にはおよそ2倍もの開きがあります。



小麦

アジア諸国の欧米食化がポイント

イネ科の一年草で、トウモロコシ、米と並び世界3大穀物のひとつです。
近年では、中国などアジア諸国の欧米食化(パンの消費が増える)に伴う需要の増大が、価格決定において無視できない要因になっています。
主な用途: 食用(8割)、飼料用(2割)
主な生産地: 欧州、中国、インド、米国(カンザス州、オクラホマ州)、ロシア等

ちなみに...

小麦の種類

小麦粉は粒の硬さによって種類が分かれています。
硬質小麦(パンに適する)
中質小麦(うどんに適する)
軟質小麦(菓子に適する)
デュラム小麦(硬質小麦の一種、パスタに適する)



トウモロコシ



イネ科の一年草で、世界で最も生産量の多い穀物です。
北半球では5-8月の天候が生育に大きな影響を与えます。
主な用途: 家畜飼料用、アルコール(工業用エタノール、ウイスキー)、コーンスターチ、甘味料等
主な生産地: 米国(アイオワ、イリノイ州を中心としたコーンベルトが有名)、中国、ブラジル等

ちなみに...

トウモロコシのひげ

トウモロコシについている「ひげ」とは、正確にはめしべのことで、その本数は粒の数と同じです。また、ひげには利尿作用があり、生薬として利用されています。



砂糖

代替エネルギーの原料として注目

砂糖は、サトウキビから生産される甘しゅ糖と、ビートから生産されるビート糖に大別されます。
サトウキビは寒帯を除くほぼ全世界で生産されている一方、寒冷地帯ではビート生産が盛んです。
最近では代替エネルギーとしてのエタノールの原料としても注目を集めています。
主な生産地: インド、ブラジル等

ちなみに...

砂糖の効果

ビーフシチューを煮るとき、あらかじめ肉に砂糖をもみ込んでおくと、砂糖が水を引きつけ、肉の組織のコラーゲン(タンパク質の一種)に水を結びつけて溶かすので早く柔らかくなります。



(出所) 各種資料より大和投資信託作成

大和投資信託

Daiwa Asset Management